

理研シンポジウム
「宇宙線の発見から100年、X線天体の発見から50年」

開催日時：平成24年11月27日(火) 10:00 - 17:30
場 所：独立行政法人理化学研究所 大河内記念ホール
主 催：独立行政法人理化学研究所 宇宙観測実験 連携研究グループ

A Century of Cosmic Rays, Half a Century of Celestial X-rays

Tuesday, Nov. 27, 2012 10:00-17:30
Okochi Hall, RIKEN (The Institute of Physical and Chemical Research)
Contact: Space observation and experiment group (Tel. 048-467-8267)

今年2012年は、ヘスによる宇宙線の発見から100年、ジャコーニらによるX線天体の発見から50年にあたる。理研は、仁科芳雄や小田稔を始めとして、これら両分野で黎明期から先駆的な研究を行ってきており、日本におけるこれらの研究の発祥の地ともいえよう。また理研が中心となって運用している全天X線監視装置MAXIも、軌道上で連続観測を開始して3年になる。本シンポジウムではこの記念すべき機会をとらえ、理研の歴史的貢献をレビューするとともに、「宇宙」を縦糸、「理研」を横糸として、未来に向け新しいサイエンスを紡ぎ出す契機としたい。(各分野のプロジェクトの紹介ではなく、サイエンスと夢を語って頂きます。)

11月27日(火)

10:00-10:10 (10+0)
シンポジウム主旨説明

松岡 勝 (理研)

10:10-10:40 (25+5)
宇宙線の特性の研究、ミューオン発見秘話

西村 純 (元宇宙研所長)

10:40-11:05 (20+5)
宇宙X線 の50年(1)

牧島 一夫 (理研)

<休憩> (11:05-11:20)

11:20-11:45 (20+5)
宇宙X線 の50年(2)

河合 誠之 (東工大)

11:45-12:05 (15+5)
MAXIで見た全天のX線天体の活動

三原 建弘 (理研)

12:05-12:35 (25+5)
宇宙生物科学のこれから

中野 明彦 (理研)

<昼食> (12:35-13:30)

13:30-13:50 (15+5)
超高エネルギー宇宙線(1)

佐川 宏行 (宇宙線研)

13:50-14:10 (15+5)
超高エネルギー宇宙線(2)

戎崎 俊一 (理研)

14:10-14:40 (25+5)

ガンマ線で見える高エネルギー宇宙

手嶋 政廣 (宇宙線研)

< 休憩 > (14:40-14:50)

14:50-15:20 (25+5)

宇宙線ミュオンを用いた地球科学

田中 宏幸 (地震研)

15:20-15:50 (25+5)

中性子星とハドロン高密度相、そして超弦理論

橋本 幸士 (理研/大阪大)

15:50-16:10 (15+5)

新しいX線観測手法としての偏光観測

玉川 徹 (理研)

< 休憩 > (16:10-16:20)

16:20-16:50 (25+5)

光格子時計が見るパーソナルスケールの相対論

香取 秀俊 (理研)

16:50-17:20 (25+5)

宇宙での原子分子物理

東 俊行 (理研)

17:20-17:30 (10+0)

concluding remarks

井上一 (元宇宙開発委員・宇宙研)

18:00- 懇親会 (広沢クラブ)

[シンポジウムホームページ]

<http://maxi.riken.jp/conf/cr100X50>

[問い合わせ先]

独立行政法人理化学研究所 宇宙観測実験 連携研究グループ

〒351 - 0198 埼玉県和光市広沢2 - 1

Tel.: 048-467-8267; Fax.: 048-467-9446

e-mail: tmihara@riken.jp

[参加申し込み]

申込不要。直接お越し下さい。
